

調査報告一一一正誤表

以下は、年報第三八号(平成三十一年三月刊)所収『実践女子大学所蔵 物語関係古筆切目録稿―伊勢・源氏・狭衣―(調査報告一一一)』に関する正誤表である。なおこの訂正は別府節子氏が行った。

頁行	誤	訂正
三〇頁 ⑧行目	内容からも真跡と認められるのではないか。	真跡と認められるのではないか。(別府)
三〇頁 ⑬行目	とする。(別府)	とする。(横井)
三三頁 ⑯行目	一五世紀後半	十五世紀後半
三八頁 ⑱～⑲行目	本断簡は、室町時代の：見える。時代も少し下がるか。	(削除)
三九頁 ①行目	典型的な定家本系天福本の本文である。(別府)	典型的な定家本系天福本の本文である。本断簡は、室町時代の古筆としては端正で温雅な書様の仮名書であるが、書写年代は十五世紀後半より少し下るように見える。(別府)
四二頁⑥～⑦行目	書を能くし、書流の系譜：受けたものとされる。	(削除)
四二頁⑧～⑨行目	二行目右脇：誤記したものを。	二行目左脇：誤記したものを。(別府)(横井)
四三頁見出し	大四半切	四半切
四七頁 ⑬～⑭行目	冊子の全丁が装飾料紙とは限らないことを考慮すれば、本葉のツレの可能性もある	冊子の全丁が装飾料紙とは限らない、あるいは、本葉の装飾が後入れである、と考えるとこれらの断簡は本葉のツレの可能性がある
五〇頁 ⑩～⑪行目	冊子の全丁が装飾料紙とは限らないことを考慮すれば、本葉のツレの可能性もある	冊子の全丁が装飾料紙とは限らない、あるいは、本葉の装飾が後入れである、と考えるとこれらの断簡は本葉のツレの可能性がある